

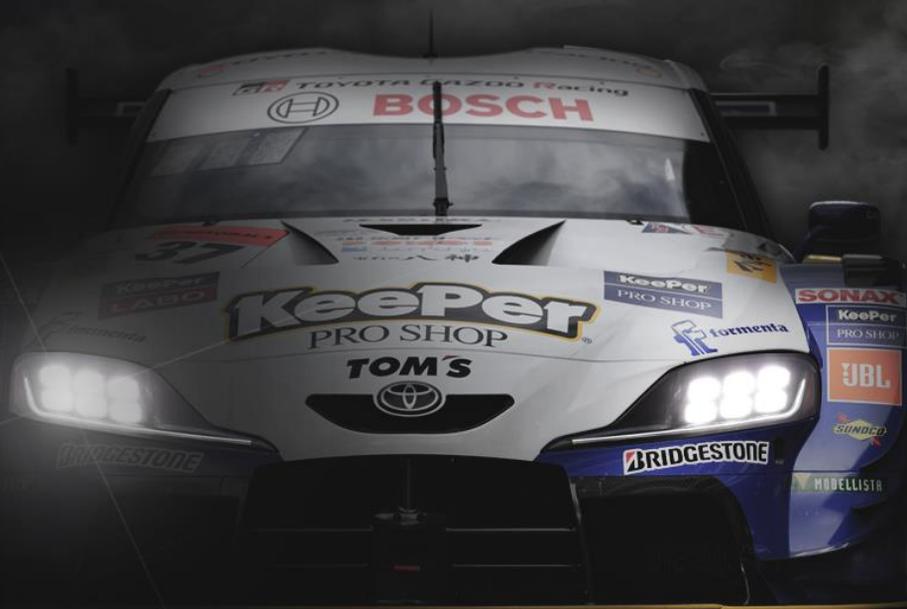


AUTOBACS SUPER GT 2020 SERIES

RACE REPORT

**KeepPer**

TEAM  
**TOM'S**



Rd.7 @TWIN RING MOTEGI

天候：晴れ時々曇り/ 気温：19-18℃ / 路面温度：24-23℃

TGR TEAM KeePer TOM'Sの37号車のニック・キャッシュディがフォーミュラEの海外テストに参加することになり、代わって山下健太が加わることとなった。トップから1ポイント差で迎えた第7戦は、ポイントx1Kgとなつて、ハンディウエイトが半減する。平川 亮が練習走行でセットアップを確認し、山下も短時間でマシンに慣れ、平川と同等のタイムをマークして見せた。そして、山下が予選のQ1を担当。予定していたアタックラップでミスをしてしまったため、再度アタック。感覚的には十分にQ1を突破した手応えがあったが、思いの外タイムが伸びず13番手に留まり、Q2へ進出することはできなかった。



- 獲得ポイントと同じ、37号車のハンディウエイトは46Kg。
- キャッシュディの代役、山下健太がQ1を担当した。
- 山下は、予定していた計測ラップ3周目に3コーナーでリヤがスライドしてしまってタイムロス。
- 10分間のQ1終了まで時間の余裕があったので山下は再度アタックを行った。
- Q1通過に0.49秒足らず敗退。13番手のグリッドから決勝をスタートすることとなった。
- 平川 亮は予選セッションの走行チャンスはなかった。



Driver	Q1	Q2
平川 亮	—	—
山下 健太	P13 1'37.572	—

天候：曇り時々晴れ・ドライ / 気温：19-18℃ / 路面温度：24-23℃



37 / ドライバー

平川 亮

これまでの延長線上のセッティングで来ていますので、持ち込みの状態から大きな問題もなく練習走行をして、マシンのチェック、そしてヤマケン（山下健太選手）に乗ってもらって、まずロングランしてもらいました。ニュータイヤを履いたら良いタイムが出ていたので、ポールポジションだって狙えるかなと思っていました。それでQ1を担当してもらうことにしました。しかし、予選になったらホンダ勢のタイムの上がり代、伸び代がすごく、1秒くらい速くなっていましたから、こっちがどんなに頑張ってもポールは難しかったですよね。仮にボクがQ1走ったとしても同じような状況であったと思います。予選に向けてセットアップを変更したのですが、ヤマケン、練習走行で初めてこのマシンに乗ったわけで、セッティングを変えたらどのような感じになるのかは掴み切れていなかったと思うので、彼に合ったセッティングではなかったのかなと申し訳なかったです。予選を終えてヤマケンは凹んでいますが、明日は一緒に頑張って、確実に順位アップを狙います。



37 / ドライバー

山下 健太

練習走行の最後、GT500クラスの占有走行で5番手だったので大丈夫かなと思っていたのですがダメでした。やっちゃったという感じですかね。予定していたアタックの周に、まだリヤタイヤが温まり切っていないで、3コーナーで失敗してしまって、もう一周アタックしました。感触としては良かったのですが、タイムを見て、〈あれ？〉って感じでした。もう少し良いタイムを出せたと思っていたので、ガッカリというか完全にチームの足を引っ張ってしまいました。4周目には少しタイヤ内圧が上がりすぎていた感じですね。本当に申し訳ないです。こうなったら、決勝で頑張るしかないですよ。せっかく呼んでもらったのだから頑張ります。そして、このチームと平川選手にはチャンピオン獲得という大きな目標があるので、もうこれ以上の失敗は絶対に許されません。



37 / レースエンジニア

小枝 正樹

今回のもてぎに持ち込んだ状態で、アンダーステア傾向だったのを修正しながら走行してきました。健太に乗ってもらった時まだアンダーが残っていたので、予選に向けてもう少し〈曲がる〉方向で行こうとセッティングしたら、行きすぎてしまって、アタックの周にリヤが流れてしまい申し訳なかったです。タイヤとのマッチングもベストではなかったので、健太が失敗したというよりもこっちサイドがマシンを合わせ切れていなかったと反省しています。走り出しから健太はロングで全く遜色のないというか、良いタイムで走ってくれたし、ニュータイヤでは亮よりも速いタイムを出していたので、Q1で走ってもらってQ2へ行こうと思いましたが、セッティングが良くなかった。申し訳なかったです。この位置からの決勝ですが、ハンディウエイトも軽くなったし、燃料流量リストラクターもないので、順位アップはできると考えています。

天候：曇り時々晴れ・ドライ / 気温：19-18℃ / 路面温度：24-23℃



37 / チーフエンジニア

東條 力

今回ヤマケンが乗ってくれて、問題なく走行してくれていました。さすがですね。ロングラン、そしてニュータイヤでもタイム出ていましたしね。しかし、予選に投入したタイヤは硬めですから一気にタイムアップするというわけではなかった。そしてセクター1の第3コーナーで失敗。チョイスしたタイヤとコンディションを考えると計測2周目のアタックはちょっと早かったですかね。ドライバーが感じられる一つの指標としてタイヤ内圧というものがあります。そしてタイヤ表面の温度、タイヤ内部の温度もドライバーは感じなくてはならない。すべてをベストな状態に整える、そしてアタックするというのはドライバーの仕事ですよ。もちろんそうできるようにエンジニアがセットアップしていくわけですが、今回はそれがベストな状況に到達できなかったということだと思います。



37 / チーム監督

山田 淳

健太は頑張ってくれました。しかし、温度、気温と路面温度によってタイヤ内圧の合わせ込みがよくなかったのかな？この季節にしては、気温と路面温度が高めだったと思いますが、ドライバーのフィーリングと実際のタイヤのウォームアップに差異があったのですかね。それが原因だと思われるのですが、予定していたアタックラップで健太から「3コーナーで失敗しちゃいました」と連絡があったので、まだ時間はあるし次のラップで良いよと返しました。最後のアタックは問題なかったと思ったのですが、Q1通過には少し足りなかった。健太が帰ってきて、「アレ？」という表情だったので、彼のドライビング云々ではなくて、マシンとしてQ1通過が難しかったのかなと判断しています。36号車を見ても、苦しい予選だったので、こっちがうまくいったとしても6番手ぐらいだったかな。チャンピオンを争っているライバルたちもQ1を通過できていなかった。ニスモの23号車が前にいるのが気になりますが、最終戦に向けては、もっともっと激戦になってくる予感があります。チームとしては、早く楽になりたいという気持ちですが、ファンの方にとっては最高の状況ですよ。



37 / 総監督

舘 信秀

ニックがフォーミュラEのテストに参加することになって急遽、山下健太を加えることとした。チャンピオン争いを演じているチームであるから、ニックを欠くことは重大な決断だった。しかし、トムスとしては、新たなフィールドにチャレンジしようとするドライバーを応援するというスタンスは変わらないので、彼を送り出した。そして、F3時代にトムスドライバーとしてニックとチャンピオンを争った健太に乗ってもらうことにした。練習走行ではすぐに慣れて、ニュータイヤを履いたら亮より速いタイムを出したから、さすがだなと思った。しかし、僅差でQ2への進出はできなかった。トムスの2台が揃ってグリッド上位からスタートできる姿を想像していたので残念だけれど、決勝で順位をどんどん上げていくシーンを想像する楽しみができた。

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：22-20℃ / 路面温度：29-23℃

予選のQ1突破を果たせず、13番手のポジションからスタートしたTGR TEAM KeePer TOM'S37号車は、序盤で着実にポジションを上げて、セーフティーカーが導入された時点で7番手まで順位アップを果たしていた。セーフティーカー明けにピットインしドライバー交代を終えて、レースに復帰。各車がピットインを全て終えると8位となり、そこからレース中盤と終盤に順位アップして6位まで上り詰めたところでレースフィニッシュとなった。トップ5はホンダNSX GTが占め、37号車はホンダ以外の車両ではトップ、GR Supraでは最上位となった。5ポイントを獲得してトータル51点となり、平川 亮がランキングトップで最終戦を迎えることとなった。



- 今回ニック・キャシディの代役出場となった山下健太がスターティングドライバーを担当した。
- 集団の中でペースが上がらない状況から、周回を重ねる毎にペースアップして同時に順位アップを果たした。
- 23周目から28周目までセーフティーカー(SC)が導入され、SCがコースインする前の順位は7位。
- SCが退去し、28周して山下はピットイン。平川 亮に交代した。
- 各車のピットインが終えた時点の順位は8位。
- 平川は、山下と同じくアンダーステアに悩まされながらも耐えて周回、ペースダウンするライバルたちをパスして2つ順位をアップ。
- 5台のNSX GTに続いて6位でフィニッシュ。
- 5ポイントを加算。5位でフィニッシュしたNSXの17号車と同ポイントの51点でランキングトップに並んだ。
- ランキングの上位陣は、近年にない僅差でひしめき合っている。計算上ではランキング12位までがチャンピオンの可能性を有して最終戦の富士を戦う。



Driver	Race Result	1s / Fastest Lap	2s / Fastest Lap
平川 亮	P6	—	1'41.011
山下 健太		1'41.130	—

天候：曇り時々晴れ・ドライ / 気温：22-20℃ / 路面温度：29-23℃



37 / ドライバー

平川 亮

スタート直後のヤマケンが苦しそうで、ペースがあまり良く無かったですね。タイヤが温まって、だんだんとペースが上がってきて、順位を下げるマシンが出てきて、徐々に順位アップできました。またしてもピットインのタイミングでセーフティーカーが入って、トップの2台以外はセーフティーカーが入る前にピットインできていなかったのが皆横一線でした。ヤマケンと同じスペックタイヤでコースインしたのでマシンの状態は同じようでした。アンダーステアでしたけれど、何とか順位アップして、終わってみればGR Supraの最上位でフィニッシュできました。ホンダの17号車がすぐ前でフィニッシュしていて、同じ51ポイントで最終戦を迎えます。富士ではSupraが速いと言われてはいますが、今回のレースを見てもホンダ勢が速いですよね。ニスモの23号車も侮れないので、全く気を抜けない状況だと思っています。勝って、チャンピオン獲得して今年のSUPER GTを締め括りたいですね。



37 / ドライバー

山下 健太

予選で期待に応えられなかったのが、前夜は部屋に戻ってからボーッとしていました。何とか気持ちを整理して、決勝では絶対にチームに迷惑をかけないようにしようと思いました。スタートドライバーは予選が終わってから言い渡されていました。決勝前の練習走行でマシンがアンダーステアであることはわかっていたので、少し不安はありましたけれど、もうしょうがないので、これで行くしかないと思ってスタートしたのですが、やはり楽ではなかったですね。でも、前を走っているマシンが脱落したり、だんだんとこっちの調子も良くなっていったので、順位を上げることができたのはラッキーでしたね。自分のスタントはちゃんと役目を果たせたかなとホッとしています。予選ではチームの足を引っ張ってしまいましたから、本当にホッとしています。平川選手が頑張ってくれたおかげで、ランキングのトップに躍り出ることができました。ボクはチャンピオンの可能性はゼロですけど、最終戦の富士では平川選手のチャンピオン獲得を全力でサポートします。



37 / レースエンジニア

小枝 正樹

決して満足のいくセッティングでは無かったですけれど、何とか戦うことができ、ドライバー二人が順位を上げてきてくれてGR Supraの最上位でゴールできて、ランキングトップになって最終戦を迎えられます。レース直前のドライバーのコメントは、<全然曲がらない。そしてトラクションも良くない。>とのことだったので、セットアップ修正、持ち込みの状態に戻ったかなという状態でした。予選でかなり落ち込んでいた健太は、予選の分を取り戻そうと頑張ってくれて、混戦の中順位を上げて頑張りを示してくれました。亮はいつものように安定してペース維持して順位アップしてくれました。決勝のセットアップはこれで行ってもらうしかない、あとはドライバーに頑張ってもらわなければならないという思いでしたが、結果を見れば、それが良かったかなと思いますし、ドライバーの二人に助けられました。最終戦はノーウェイト、リストラクター無しですから、ライバルたちがこれまでどのくらい進化しているのか現場でハッキリする。我々も進化しているので、正に実力勝負。すごい僅差のチャンピオン争いで勝って、決めたいです。

天候：曇り時々晴れ・ドライ / 気温：22-20℃ / 路面温度：29-23℃



37 / チーフエンジニア

東條 力

決勝のレースを終えて、他のGR Supraも大なり小なり我々と同じようにアンダー傾向だったり、オーバー傾向だったという状況でしたね。当然、セットアップとタイヤとのマッチング、グリップの強さが、フロントとリアで違っていたのがその原因です。オーバーよりもアンダーだった方がドライバーのテクニックで補える部分が大い。オーバーだとブレーキングでロックしてしまうし、トラクションもかかってくれないからどうしようもない。だからアンダーだった37号車は、二人のドライバーの頑張り、テクニックで補い、順位をアップしてこれた。最終戦の富士はかなり路面温度が下がるといいます。近年この時期にレースが行われていないので、タイヤの選択がキーになってくると思います。プリチストンさんのタイヤ造りを信頼していますし、これまでの走行、テストでのデータを取捨選択していけば大丈夫でしょう。そして勝って、チャンピオン獲得です。



37 / チーム監督

山田 淳

何とか堪えてくれて、GR Supra最上位でフィニッシュすることができました。健太は、スタートから苦しい展開でしたね。それでも頑張って順位を上げてきてくれて、さすが健太です。彼に加入してもらって正解でした。と、言うか彼しかいなかった。亮も同じく苦しい走行でした。それでもちゃんとゴールへ運んでくれました。その二人の頑張りで何とかチャンピオン争いのランキングトップで並び、最終戦を迎えられます。このレースを終えて、ちょっとホッとしています。そして、最終戦はこれまでにない僅差で誰がチャンピオンになってもおかしくない状況ですね。富士はトヨタのホームコースですから、そこで気持ちよく勝ってチャンピオン獲得といきたいですね。しかし、安心はしてはいられません。コンディションが寒くなってきて、Supraの良さ、速さ、強さが削がれてきてしまっていると感じています。これまでの富士の強さが示されないと、また苦しい展開ですから、決戦までにシャシー、エンジン、そしてタイヤともマッチングをベストな状態にして最終戦を迎えられるように準備します。



37 / 総監督

舘 信秀

予選からその勢いと強さを感じてはいたけれど、さすがにホームコースで全てのNSXに1位から5位までを独占されて、凄いと感ずると共に悔しさがある。NSXに続いてウチが6位。GR Supraの最上位。セッティングが合わずドライビングは決して楽ではなかったようだ。その状況下で亮と健太は13番手から追上げた。そして、ランキングトップに躍り出た。最終戦は我々のホームコース富士だから、今回は逆にGR Supraの上位独占を見せつけたいところだね。それを考えると、早く最終戦が来ないかとワクワクしている。今日のレースを見ていて、チャンピオン獲得だけじゃもう考えられない。